

低迷にも悩まされました。現在は震災前の水準に回復しつつありますが、あの苦しみや二度と味わうわけにはいきません。例え全国民が放射能やがれき処理を正しく理解しても、外国人に対する風評を払拭できるかは不明です。

●**広域処理に国費を投じることへの非効率性**

がれき処理そのものに国費を投じること自体は何ら問題ありませんが、広域処理に投じては、被災地の経済に対する直接的な効果が薄らいでしまいます。被災地ではがれきを処理することにより、そこに国費が投じられ、雇用が生まれ、地域経済の再生をより助長させると考えます。

私は市民の皆様の安全安心を守る立場にあります。決定的な安全性が担保されていない今、目に見えない放射能の不安を払拭するためにも、先人から受け継いだ豊かな地域を子々孫々に受け継ぐためにも、私は広域処理に反対します。そして、国に対して粘り強く、放射能に関する情報の開示やがれき処理の判断材料の提供などを訴えてまいります。

市としては被災地の復興を心から願っているものであり、可能な限りの支援を今後とも力強く行ってまいります。

まず、避難者の受け入れと生活支援を今後とも全力で取り組みます。当市には県内で最も多い避難者[※]が生活されています。原発事故でふるさとをやむを得ず離れた皆様の、心と生活をきちんと受け入れます。また、外で元気いっぱい遊べない被災地の子どもたちを、今後とも夏休みなどに温かく受け入れます。一方で、被災地に対しては、義援金や救援物資、職員の派遣といった物的・人的な支援を引き続き行っていくとともに、今後とも、有効な被災地支援策を検討してまいります。

市民の皆様におかれましては、様々なご意見があらうかと思いますが、ぜひともご理解いただきますようお願いいたします。

高山市長

くに
しま
みち
ひろ
國島芳明

※高山市への避難者

東日本大震災直後より、市では震災避難者の受け入れを行っています。4月23日現在で24世帯58人（震災後の延べで56世帯149人）です。